

令和4年7月8日

PTA 会員様

県立北須磨高等学校 PTA
会 長 柴谷 雅也
育成委員長 梶原 美紀子

PTA育成委員会だより

夏休みも間近となり、海や山の恋しい季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

平素は、PTA 活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。

さて、7月5日に 河合塾 神戸三宮校 校舎長、山田 浩平(やまだ こうへい)氏をお迎えして進路講演会を開催いたしました。96名の皆様のご参加と進路指導部長の藤後先生のご協力をいただき、有意義な時間を過ごすことができました。

つきましては、当日のアンケートの結果及びご感想の一部と藤後先生からのメッセージを掲載致しておりますので、あわせてご覧下さい。

【アンケート結果 (93名回答)】(ホームページにも掲載)

① 学年別の参加人数(保護者)

学年	人数	割合
1年	29	31%
2年	30	32%
3年	34	37%

② 講演会の時間について

回答	人数	割合
長い	4	4%
少し長い	4	4%
丁度よい	83	90%
少し短い	1	1%
短い	1	1%
無回答	0	0%

③ 講演会の内容について

回答	人数	割合
期待以上	39	42%
期待通り	43	46%
普通	11	12%
期待と違った	0	0%
期待はずれ	0	0%
無回答	0	0%

④ 講師の話し方について

回答	人数	割合
分かりやすい	87	94%
まあまあ分かりやすい	5	5%
普通	1	1%
少し分かりにくい	0	0%
わかりにくい	0	0%

◆保護者の方からのご意見、ご感想◆◆◆

(1年生の保護者より)

- ・家で勉強をしない息子にイライラしていたのですが、接し方が学べて良かったです。
- ・今の(1年)の時点で何をすべきか教えて欲しかったです。
- ・色々な情報をいただいて、参考になりました。
- ・具体例が多く、わかりやすかった。子供にも聞かせたい(機会を作って欲しい)です。

(2年生の保護者より)

- ・気づきのある講演会でした。要点が分かりやすく、また2年次に聞いて良かったです。
- ・聞きたくても、なかなか聞けない内容で、勉強になりました。
- ・去年のYouTubeも良かったが、今年の実演も良かった。今年の実演もYouTube配信してもらえると、聞きたいところを見直せてなお良かったと思います。
- ・子供と自然体で向き合っている範囲で支えたいと思いました。
- ・必要な情報を具体的に聞くことが出来て良かった。年に数回行って欲しい。
- ・聞いた内容は上の子の時の反省点も多くあり、今回の話を参考にして下の子をサポートしていきたいと思いました。
- ・子供より親の方が、バタバタしていることが分かった。

(3年生の保護者より)

- ・とても分かりやすく教えていただきありがとうございます。参加して良かったです。最後まであきらめず子供とつきあって行こうと思いました。
- ・3年前の受験と違うと言う話が聞いて良かったです。
- ・親の関わり、言葉掛けから変えて行きたいと思います。
(「まさに私がかけていた言葉でした」)
ありがとうございました。
- ・冷房がかかっているならば、もう少し聞きやすかったのですが、講演ありがとうございました。モヤモヤが少し晴れました。
- ・四国地方の大学紹介が面白く参考になりました。他の地方の大学の話をもっと聞きたかったです。

※進路講演会での配布資料をご希望の方は、生徒さんを通じて担任の先生から進路指導部へお申し出ください。

PTA 進路講演会を終えて

進路指導部長 藤後泰典

2年ぶりに対面形式で実施することができた進路講演会、悪天候にもかかわらず多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。講師の山田先生からも「保護者の方がしっかりメモを取りながら聞き入ってくださったので思わず熱が入りました。」とおっしゃっていただきました。講演や講義は決して一方通行のものではなく、話す側、聞く側双方で作っていくものであること再確認させていただきました。

以下、講演内容の一部を挙げさせていただきます。

- ・河合塾 塾生アンケートより「受験期に親のここが嫌だった。」

- 今の入試制度を説明しても聞いてくれなかった。

- 自分の感覚で受験大学に口出ししてきた。

- 兄弟姉妹・親戚との比較

- 受験が近づくにつれて、親が私以上にピリピリしていた。

⇒少なくとも基本的な大学入試の知識は持っているほしいが、普段通り見守っていてほしい。大学入試は子どもの入試。保護者の入試ではない。子ども自身の選択が重要。少し前の受験感覚で判断したり、わからないから子どもにまかす、ではなく、ある程度理解した上で信頼してまかせること。

- ・全国的に「浪人したくない」、「早い時期に進路先を決めて安心したい」、「科目を絞って楽したい」という志向が強まっている。ライバルが少ない。国公立大・私立大ともに最後まで粘って頑張れば合格可能性が高い。特に国公立大の後期日程は欠席率が高くねらい目。
- ・私立大学は定員厳格化のため合格数を絞り込んでいた数年前までとは打って変わって大幅に合格数を増やしている。ただ、人気のある大学が合格しやすくなっているからといって、じゃあそこで十分。というのではもったいない。さらに上を目指しやすい状況。
- ・国公立大学志望の人も早くからあきらめる必要はない。科目を絞って勉強しないと私立大学にも受からないのではと不安にならず、落ち着いて学習に取り組んでほしい。国公立大学を目指しながら（科目を絞らず）、私立大学を併願していく形が今までになく取りやすくなっている。
- ・全国に目を向けると魅力のある国公立大学が多くある。共通テストが終わってからではマッチする大学を探す余裕がない。今からいろいろと調べておこう。
- ・子どもの数は減って、大学数は1.5倍に。望めば10人中9人は大学生になれるが、ただ大学生になるだけでは意味がない。(昨年の進路講演会講師の吉田先生からも、「大学をブランドや人気、カフェテラスのきれいさで選ぶと就職する時に自分を語れない学生になる。大学名のラベルだけが貼られた学生になってしまう。」というお話がありました。)
- ・高校3年生の夏以降、100点伸びる。言いかえれば、それ以上伸ばしていくのは中々難しいということ。3年生の部活動を引退するまでにどう学習に取り組んだか。

- ・学習の習慣化にも1～2ヶ月必要。受験生自身がイメージ通りの学習の質、量を確保できるようにするにはある程度の時間がかかる。夏休みに入って一気にペースを上げようとしてもうまくいかないことも多い。
- ・がっかりタイムを乗り切る。3年生の頑張りが成績になって表れてくるのは秋以降。2学期すぐの模試で結果が思うように出ない時期をうまく乗り切ろう。「受験の3禁」は安易に志望を下げない、安易に科目を減らさない、安易に推薦に走らない。保護者としては勉強をやり始めたという行動を褒めてあげてほしい。

その他にも受験期の子どもとの距離感についてや、声のかけ方・言葉の使い方など保護者としての心構えについて非常に具体的に紹介していただきました。多くの有意義な情報を保護者の皆様と共有させていただけたと思います。

講演内容にもありましたが大学入試をめぐる状況は共通テスト導入とコロナ禍以降、大きく変化しています。進路指導部からも受験に関する情報を出来る限りお伝えしていきたいと考えています。生徒たちの進路実現に向けて、なお一層のご協力をよろしくお願い致します。